

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業  
中間評価結果の総括

令和6年3月26日

大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業評価委員会

「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」は、令和3年度から、社会人の創造性を育成するため、大学等においてデザイン思考・アート思考の養成、分野横断型の学修を経て、創造的な発想をビジネスにつなぐ教育プログラムの開発や拠点の形成を行い、我が国の国際競争力の向上や生産性の向上に資する「組織」と「人」の変革を進めることを目的として実施されている。

このたび、事業開始から2年が経過したことを受け、選定された2件の事業について、「中間評価」を実施した。本中間評価は、各事業の達成状況や成果等について評価を行い、その結果を各大学に示し適切な助言を行うとともに、社会に公表することにより、各事業の更なる充実を促すことを目的とするものである。

評価結果は、1件が「A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる」であり、もう1件が「B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である」であった。いずれの大学においても、設定した目標値以上のプログラム受講者数を確保しており、卒業生をはじめとする拠点の構築を含め着実に事業が実施されている。なお、各大学とも目標を達成するために順調に進捗している取組もしくは先導的な取組については、評価結果の「コメント」に「優れている点」として具体的に記載している。以下、改善を要する点とともに抜粋する。

<優れている点>

- ・主幹校の東京工業大学を中心にコンソーシアム大学間で密なコミュニケーションを取り、テック×アート×ビジネスそれぞれの特徴・役割分担を活かしたカリキュラム構築が着実に進んでいる。各専門分野の専門家の研究知見等がしっかり入った大学ならではの学習プログラムとなっている。[東京工業大学]
- ・学生の応募数や受講数は順調に推移し、学生が主体的にプログラムに取り組んでいる。アンケートでは学生から高い評価結果を得ている。[京都大学]

<改善を要する点>

- ・ビジネスモデルの見直しを進めて頂きたい。現状のプログラム内容には相当の価値があるが、持続的に提供する（≒自走化・自己収入での運営する）という観点においては提供価格等との釣り合いが取れていない。[東京工業大学]
- ・他組織への展開の指針であるコンソーシアム参画組織数（新規）は令和5年12月時点で3組織と目標である10組織の30%にとどまっている。[京都大学]

事業を実施する各大学においては、令和3年度の選定時に付された留意事項や令和4年度のフォローアップ時に示された指導・助言も踏まえ、事業計画を順調に進行させた点について一定の評価ができ、これは関係者の甚大な努力によるものであると思料している。引き続き、デザイン・アート双方の思考法を適切に使いながら、持続可能なビジネス化の視点を持ってプログラム設計や広報周知を行い、最終評価においては、「計画を超えた取組」（S評価）として、価値創造人材の輩出・活躍へと進展することを願っている。今回の中間評価を踏まえて、各大学が補助期間終了後も見据えて取組を進め、「価値創造の拠点」として、労働生産性の向上やイノベーションの牽引等に寄与することを期待している。

## 令和5年度「大学等における価値創造人材育成拠点の形成事業」中間評価結果一覧

### 総括評価

区分	評価	件数
S	計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。	0
A	計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。	1
B	一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。	1
C	取組に遅れが見られるなど、総じて計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するためには、当初計画に基づく目標の早急な達成や事業規模の縮小等に向け、財政支援の縮小を含めた事業計画の抜本的な見直しが必要である。	0
D	現在までの進捗状況に鑑み、本事業の目的を達成できる見通しが無いと思われるため、選定大学等への財政支援を中止することが必要である。	0

設置 区分	大学名	事業名	評価 区分
国立	東京工業大学	Technology Creatives Program (通称テックリ)	A
国立	京都大学	京都クリエイティブ・アッサンブラージュ (Kyoto Creative Assemblage)	B